

自民党自動車議連が政策懇談会開催

内山田会長が税制抜本見直しに向けて 「その礎となる議論」を求める

総会で甘利新体制がスタート



政策懇談会で挨拶に立つ内山田竹志会長（写真中央）

自 民党自動車議員連盟と自動車関係15団体との政策懇談会が12月1日、東京・千代田区の衆議院第一議員会館大会議室で開催されました。出席団体からは税制改正要望に加えて、人手不足や資源・エネルギー価格の高止まりなどによる深刻な影響についての状況説明や支援要請が数多く述べられるとともに、従来の自動車産業の枠を超えた新たなモビリティ社会を見据えた税のあり方の議論を求める意見も散見されました。

政策懇談会に先立ち、佐藤信秋議連事務局長が「自動車議連の要職を歴任されました細田博之前衆議院議長のご冥福をお祈りし、哀悼の意を表したい」と述べ、出席者全員で細田氏に黙とうを捧げました。

続いて自動車議連の総会が開催され、冒頭、挨拶に立った額賀福志郎議連会長は、衆議院議長に就任したことにより議連会長を退任する意向を表明。後任に甘利明衆議院議員を指名したのははじめ、議連幹事長の塩谷立衆議院議員が会長代理に、議連副会長の茂木敏充衆議院議員が幹事長に就任する案も示されましたが、満場一致で承認され、甘利新体制がスタートしました。

甘利新会長は昨年、自動車議連内に創設された「モビリティを軸に成長する未来社会を考える会」の会長も務めており、新たなモビリティ社会のあり方に向けて政府や経団連などと骨太の議論を行ってこられました。額賀氏は冒頭の挨拶の中で、「議連幹部



細田博之前衆議院議長のご冥福をお祈りし、出席者全員で黙とう

の皆さんにも相談した結果、モビリティの課題に取り組んできた甘利先生に、この過渡期の、大変革期の議連を託していいのではという声が大きかった」と甘利氏指名の背景を説明し、「今後は、甘利会長を中心として、この変革期の自動車産業のあり方について、議連として、党としてしっかりと方向性を打ち出してほしい。自動車業界としても、甘利新体制において、しっかりと前を向いて日本の産業界の先頭を行って頑張ることを心から期待しています」と述べて挨拶を締めくくりました。

額賀氏からエールを送られた甘利新会長は、「額賀前会長がおっしゃったように、自動車の歴史の大きな転換点があります」との認識を示し、次のように抱負を述べました。



額賀福志郎議連前会長



甘利明議連新会長



塩谷立議連会長代理



茂木敏充議連幹事長

「先のジャパンモビリティショーでは、自動車がモビリティへと変わり、自動車という移動空間がオフィスになり、会議室になり、エンタメ空間になりと、新しい価値を持つことなどが披露されました。自動車業界は現在も最大の雇用とGDPを支える基幹産業です。私の使命は、議連のメンバーと協力しながら、これからも日本の産業界をリードし、新しい価値を創造するこの産業が営々として栄えていくようサポートしていく役であると思っています」

続いて塩谷会長代理も挨拶し、「日本経済を、日本の産業界を発展させてきた自動車産業が大変な時代の転換期を迎えています。こうした厳しい時期に、これからの新しい時代に向かって議連も推進役として努力していかなければなりません。決意を新たにしているところです」と述べました。

茂木幹事長は、「日本が自動車立国として、引き続き勝ち抜いていくために尽力してまいりたい」と挨拶し、自動車関係諸税のあり方について言及。「自動車産業を取り巻く環境が大きく変化中、技術革新や異業種からの新規参入が相次いでいます。競争力を強化し、新たなモビリティ社会にふさわしい税体系にするための議論を深めていく必要があります。おそらく、ここ1、2年が勝負になると考えており、甘利会長はじめ自動車関係諸団体の皆さんと力を合わせて取り組んでいきたい」と抱負を述べました。

総会最後に、佐藤事務局長がその他の役員人事については甘利新会長に一任することを提案し、これも満場一致で了承され、次の総会までに選任することが確認されました。

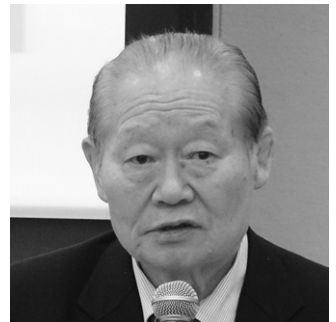
総会の後、引き続き政策懇談会が開催され、出席団体を代表して当会議所の内山田竹志会長＝挨拶要旨は4ページに掲載＝が挨拶に立ち、「自動車産業は、GXやDXによる100年に一度と言われる大変

革期に直面しており、CASEや2050年カーボンニュートラルの実現という大きな課題とも向き合っております。われわれ自動車業界は、各団体・企業が力を合わせてこの困難に打ち勝って乗り越えていく所存・覚悟です」と述べました。

そのうえで、「こうした大変革期において、依然として過重で複雑である自動車関係諸税は、まさしく今が抜本的に見直す大きなチャンス」として、「カーボンニュートラルの実現、自動車保有全体の電動化促進などの大きな方向に沿うよう、来年からと想定される本格的な議論に向けて、本年はその礎となる議論を進めていくことが大変重要であると考えております」と訴えました。

続いて、日本自動車工業会をはじめとする各団体が、順次、業界の現況や税制課題などについて説明し、支援や要望などを訴えました。この後、経済産業省から報告があり、伊吹英明製造産業局長は日本の自動車産業を取り巻く環境や経済対策、予算・税制上の支援などを説明した後、「自動車関係諸税については、受益と負担の関係を含めて、公平・中立・簡素な課税のあり方を目指していきますが、おそらく本格的な議論は来年から。しっかりと業界の意見を踏まえて頑張っていきたい」と述べました。

この後意見交換に入り、出席議員から多くの質疑や意見が表明されました。最後に、塩谷会長代理が「税制の問題は大きな課題であり、来年に向けて根本的な議論をしていかなければなりません。また、欧米社会の変化も見据えて、しっかりと世界に冠たる自動車王国として日本がこれからも歩んでいける



佐藤信秋議連事務局長

日本自動車会議所 内山田 竹志会長 挨拶要旨

ただ今、自動車議連新役員の皆さまのご案内がありました。額賀前会長には、自動車取得税の廃止や、自動車税の恒久減税実現という大きな成果も導いていただき、そのご功績に厚く御礼申し上げます。また、先月お亡くなりになりました細田前衆議院議長におかれましては、生前中のご厚誼に深く感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。そして、甘利新会長をはじめ新役員の皆さまには、ご就任を心よりお祝い申し上げますとともに、より一層のご活躍を祈念申し上げます。



さて、日本の自動車産業は、わが国のGDP、雇用、納税、サプライチェーンと、幅広い分野に関係する基幹産業として日本経済を牽引してまいりました。さらなる発展に向け、将来にわたって日本の産業の軸としてさまざまな社会課題の解決や新しい価値の創造に取り組んでまいります。

一方、自動車産業は、「GX」や「DX」による100年に一度と言われる大変革期に直面しており、CASEや2050年カーボンニュートラルの

実現という大きな課題とも向き合っております。われわれ自動車業界は、各団体・企業が力を合わせてこの困難に打ち勝って乗り越えていく所存・覚悟ですので、日本経済における自動車産業の重要性につきまして、引き続き深いご理解をお願い申し上げます。

また、こうした大変革期において、依然として過重で複雑である自動車関係諸税は、まさしく今が抜本的に見直す大きなチャンスであるにとらえています。今後、モビリティの拡がりとともに、新たな経済的・社会的受益者も拡がってまいります。自動車の枠にとらわれず、受益と負担の関係を再度整理し、税体系の抜本的見直しを行い、自動車ユーザーの税負担軽減につなげる必要があります。いずれにしましても自動車関係諸税は、カーボンニュートラルの実現、自動車保有全体の電動化促進などの大きな方向に沿うよう、来年からと想定される本格的な議論に向けて、本年はその礎となる議論を進めていくことが大変重要であると考えております。

最後になりますが、先般、自工会会長にいすゞ自動車の片山正則会長が就任されることが発表されました。自動車業界団体も常に新しく変わりながら、変革期に立ち向かう所存ですので、甘利新会長をはじめ自動車議連の皆さまには、引き続き自動車業界への強力なご指導・ご支援を賜りたくお願いいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

よう、業界の皆さんと議連が一体となって頑張っていくしますので、よろしく願いいたします」と述べて、政策懇談会は閉会しました。

【経済産業省出席者】

▽伊吹英明製造産業局長、▽田中一成審議官、▽清水淳太郎自動車課長

【団体側出席者】15団体34名

▽自工会＝長田准総合政策委員長、田川丈二総合政策副委員長、後藤収税制部会長、永塚誠一副会長・専務理事、▽自販連＝金子直幹会長、佐藤康彦副会長、小糸正樹副会長・専務理事、▽全ト協＝浅井隆副会長、若林陽介理事長、▽日バス協＝早川弘之税

制対策委員長、石指雅啓理事長、▽全タク連＝太田祥平総務委員会副委員長、辻正剛常務理事、▽全軽自協＝赤間俊一会長、成瀬修副会長、板崎龍介専務理事、▽輸入組合＝上野金太郎理事長、入野泰一副理事長・専務理事、▽中販連＝海津博会長、武藤孝弘専務理事、永井保典常務理事、▽部工会＝大下政司副会長・専務理事、持丸慶業務部部長代理、▽日整連＝笠原剛調査企画部部長、永窪方明事務局次長、▽全レ協＝中村浩一専務理事、岡本健事務局長、▽車工会＝板倉範頭専務理事、小森啓行事業統括部長、▽通運連盟＝松本年弘理事長、浅見一夫財務部長、▽全自協＝土橋利朗常務理事、▽会議所＝内山田竹志会長、山岡正博専務理事